

教点連ニュース 第1号

・新しい役員体制

6月10日に名古屋で開かれた総会において、これまでの役員のうち、辞任した石津理事、山田監事の代わりに、新しく込山光廣氏（NPO 法人日本点字技能士協会理事長）が理事に、三上洋氏（地域の学校で学ぶ視覚障害児（者）の点字教科書等の保障を求める会）が監事に選ばれました。その後の理事会において、理事長に田中徹二（社会福祉法人日本点字図書館理事長）、副理事長にこれまで通り、高橋秀治（社会福祉法人ぶどうの木ロゴス点字図書館館長）、岩井和彦（社会福祉法人日本ライトハウス盲人情報文化センター館長）、また、事務局長に込山光廣の各氏が選ばれました。

なお、総会では、平成18年度事業報告・決算、平成19年度事業計画・予算が承認されました。

・平成19年度第1回セミナー終了

第1回セミナーは、6月10日、名古屋のIMYホールで開催されました。テーマは、「点字教科書はどのように使われているか ～教科書製作者と学校現場のよりよい連携を目指して～」で、91名もの多数の方が参加されました。

パネラーは、橋本淑江氏（保護者の立場から）、山本宗平氏（点字教科書使用経験者の立場から）、山本有美子氏（介助員の立場から）、前田政治氏（巡回教員の立場から）、大杉和子氏（点訳者の立場から）の5人でした。発表に対して会場から活発な質問や意見が出て、熱気に満ちた研修会となりました。

なお、第2回セミナーは、大阪を会場に、秋に開く予定です。

・文科省、教科書協会との話し合い

7月9日午前10時30分から文科省で、教科書課の野口課長補佐、祖父江係長、それに特別支援課の池尻調査官、西本係長、教点連からは田中理事長、高橋秀・岩井副理事長、込山事務局長、高橋実理事が出席して話し合いました。

盲学校用点字教科書など広い範囲の意見交換をした後、点訳料と点訳データの保管について文科省の考えを聞きました。点訳料については、ボランティアにお願いするのが基本なので、人件費は考えていないという発言がありました。これに対し、高橋実理事から強い反対意見があり、具体的な金額は示されなかったものの、従来の価格（1ページ600円）がなんとなく承認されたような状況でした。また、点訳データの保管については、池尻調査官から国立特別支援教育総合研究所のデータベースを活用したらどうかという示唆をもらい、1時間半に及ぶ話し合いを終えました。

一方、教科書協会では、橋本事務局長、三谷事務局次長と面談しました。たいへん友好的な雰囲気、来年度からの教科書は、拡大教科書のグループを通すのではなく、日本点字図書館の事務局から直接お願いすること、11月に結論が出る拡大教科書用の教科書データの提供に、教点連も加えてもらうこと等を了承してもらいました。

今後も機会あるごとに、文科省、教科書協会とは接触していきます。

・相談窓口の設置

以前から点訳のノウハウについて相談できる所がないかという会員からの声がありました。それにお応えするため、折衝を重ねておりましたが、筑波大学附属視覚特別支援学校（盲学校）の高村明良先生と原田早苗先生のお二人が受けてくださることとなりました。お二人とも点字や触図に関してのベテランだけでなく、文科省が製作している盲学校用点字教科書の編集委員でもあります。高村先生は数学、原田先生は国語の先生ですが、専門以外でも幅広い知識をお持ちですので、さまざまな質問に答えていただければと思います。お気軽にお問い合わせください。なお、お問い合わせは会員に限らせていただきます。

連絡先：電話 (03) 3943-5423 (教官室直通)

Eメール takamura@nsfb.tsukuba.ac.jp

sanae@nsfb.tsukuba.ac.jp

・視覚障害教育情報ネットワーク

国立特別支援教育総合研究所の千田耕基部長から連絡があり、同研究所の視覚教育情報ネットワークを教点連会員に解放してくださるということです。本来は全国の盲学校ネットワークで死にかかっていたのですが、平成14年に全面的に改良して、今後も責任をもって維持していくということです。

このネットワークをいかに活用していくかは理事会で検討していきますが、会員としてお申込みいただければ、今からでもIDを発行するという事です。ご関心のある方は千田部長に直接Eメールでお申込みください。

Eメール・アドレス chida@nise.go.jp

・会費変更について

今年度から当会の会費を次のように変更いたします。(1)情報提供施設 2万円、(2)ボランティア団体 5千円、(3)協力個人 5千円。

したがって、これまでに会費を納入していただいているボランティア団体につきましては、5千円を返却せず、今年度及び来年度（平成20年度）の分とさせていただきますので、ご了承くださいませようお願いいたします。

発行日：平成19年7月20日

発行所：NPO法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

発行人：田中徹二

連絡先：(社福)日本点字図書館 担当：田中・古谷・小野俊

〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

Tel: (03)3209-0241 Fax: (03)3204-5641

E-mail: nitten@nittento.or.jp

教点連ニュース 第2号

・盲学校における特別支援の実態

8月1日に鳥取県民文化会館で開かれた全国盲学校普通科教育連絡協議会（普連協）の総会で、盲学校が実施している特別支援についての実態調査報告がありました。アンケートの結果をまとめたものです。盲学校に相談に来た事例と、盲学校の教員が出かけて行って指導した事例の双方について報告がありました。

その中で、一般校で統合教育を受けている児童・生徒が誰かについて、はっきりした指摘はありませんが、盲学校の教員が出かけて行って指導している事例は、明らかに統合教育を支援していると考えられます。普連協の集計結果から以下に紹介しますが、幼稚園、養護学校在籍者、弱視者は除きました。

筑波盲（中1）、平塚盲（小4、中1、中3）、名古屋盲（小4）、滋賀盲（小6、小6）、京都盲（高3）、和歌山盲（高2）、大阪府盲（小1、小2、小5、中1）、大阪市盲（小3、小4）、兵庫盲（小1、小1）、岡山盲（高3）、都立久我山盲（小・中1）、都立葛飾盲（小5）

以上、小学校13人、中学校5人、高校3人という集計になっています。

一方、盲学校に相談に来た事例では、小学校45人、中学校8人、高校4人となっています。ただ、この中で点字教科書を使用している児童・生徒がどのくらいいるかははっきりしていません。実態調査第2弾で、各盲学校に調査します。なお、統合教育予備軍として、幼稚園児が66人もいたことは注目すべきことです。（理事長 田中徹二）

・拡大教科書検討会議に参加しました

8月2日（木）14時から18時まで、教科書研究センターで標記会議が開催されました。文科省から教科書課長ほか3名、国立特別支援教育総合研究所の研究員2名、筑波大付属視覚特別支援学校教官、NPOで視聴覚障害者援護に携わる団体、大学関係者、全国拡大教材製作協議会、それに教科書会社の拡大教科書小委員会のメンバーや教科書協会事務局等、全体で30名ほどの会議でした。教点連からは、高橋秀治副理事長と込山が、オブザーバーとして参加しました。

会議は1部と2部からなり、まず第1部では国語・理科・算数・地図などの画像データを拡大する際に、実際どのようにするかについてのデモンストレーションがボランティアによって行われました。教科書の文字情報をスキャナーで取り込み、それをそれぞれの子どもの見え方に合わせて、パソコン操作（必要な場合には手書も加えて）により、拡大率や方法・背景色の工夫などを細かくしなければならぬことが説明されました。

第2部は意見交換でした。「拡大教科書用デジタル・データへの主な要望事項」に基づいて、ボランティア側からテキスト・データはもちろん、画像データも使い易いように変更することが要求されました。これに対し教科書協会からは、11月位までにテキスト・データの提供を考えているが、画像データについては、著作権の問題もあって難しいという回答がありました。最後に、拡大教科書を必要としている児童・生徒の権利を保障するために、法改正を含めて検討することを確認して散会しました。

教点連にとって、教科書本文をデータで提供が受けられるとすれば大いに助かります。今後、全国拡大教材製作協議会等と連携を密接にし、文科省や教科書協会と話し合い、要求を実現させていきたいと考えています。（事務局長 込山光廣）

・筑波技術大学が情報系点字図書の情報提供事業を開始

同大障害者高等教育研究支援センターは、昨年10月に、情報・理数点訳ネットワークを立ち上げました。これは、視覚障害大学生の学習資料の中でも確保が難しいとされている、情報・理数系分野の点字図書を整備するための組織です。ネット参加の首都圏六つの点訳グループが点訳実務を担当し、同センターが運営事務を行っています。このほど、第1期分の図書の点訳が完成し、その提供が開始されることになりました。完成した点字データや点図データは大学に所蔵し、希望に応じて、バインダ製本の形態または電子データで、点字使用学生やその教育に携わる大学関係者などに無償で提供されます。事業開始時点で提供できるのは13タイトル。情報処理の基礎を学ぶのに役立つ図書です。

なお、同ネットでは、点訳の質的向上を図る目的で、これまでに、

- ・触図や情報処理点字に関する研修の実施
 - ・触図作成技法テキストの作成と配布
 - ・点訳方法の相談や情報交換のためのメーリングリストの開設
 - ・点訳基準の策定と冊子体での配布
- などの取り組みを行っています。

詳しくは、<http://www.ntut-braille-net.org/>をご覧ください。（理事 長岡英司）

・実態調査にご協力ください

教点連では、実態調査第1弾として、点字教科書を必要とし、統合教育を受けている児童・生徒がどの位存在するか、アンケート実態調査を実施しています。調査依頼が届いた団体・施設では、できるだけ正確な結果が得られますようにご協力をよろしくお願いいたします。

言うまでもありませんが、ご回答いただいた個人情報、教科書点訳が順調に進むこと以外には使用いたしません。

・会員拡大にご協力ください

教点連の年会費は、(1)情報提供施設 2万円、(2)ボランティア団体 5千円、(3)協力個人 5千円となっています。統合教育を受けている児童・生徒のために教科書を点訳しておられる団体以外でも、会員になっていただければ、点訳活動に役立つ情報が得られます。ぜひご入会ください。

発行日：平成19年8月20日

発行所：NPO法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会

発行人：田中徹二

連絡先：(社福)日本点字図書館 担当：田中・古谷《こたに》・小野俊

〒169-8586 新宿区高田馬場1-23-4

Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641

E-mail：nitten@nittento.or.jp